

# 計画策定における市民意見募集の結果について

## 1 市民意見募集の概要

令和4年度から令和8年度までの5年間の計画として、第3期三田市教育振興基本計画の策定にあたり、三田市教育振興基本計画検討委員会にて審議を進めているところです。

計画策定にあたり、広く市民の皆様から「これからの三田市の教育」についてご意見をお聞かせ願うために意見募集を行っているものです。

※これらのご意見は、「三田市教育振興基本計画検討委員会」の資料として、計画策定の参考とさせていただきます。

## 2 申込概要

- (1) 対象：市内在住、在勤、在学者
- (2) 回答方法：指定の用紙に記入もしくは、インターネットから回答
- (3) 申込期間：令和3年2月1日（月）～2月28日（日）※6月30日（金）まで延長
- (4) 申込フォーム：

フォームの URL（インターネット）

<https://logofom.jp/form/hyogo-sanda/6834>



## 3 回収状況

13人、28件 ※令和3年5月10日時点

項目	件数
<b>学校再編（幼稚園、小中学校）</b> <b>（望ましい集団規模の根拠がない、学級規模は小さい方が望ましいのは明白、都市計画等と連携した計画に）</b> ①説明会では「望ましい集団規模」には根拠がないことが認められた。「時代の変化」に対応していくために、過去の習慣、常識、概念の延長で施策を定めていることを危惧している。社会情勢を鑑み、過去の延長線や価値観で議論を進めることがないよう希望する。 ②子供達に伝えたい、残したい何かがあるとすれば、それが存在するのは文化が継承され、歴史がある農村部であることは自明。それを考えると、幼稚園のあるべき場所、望ましい場所は農村地域。いかにその地域（＝三田市の宝）を守り、維持していくのかを考えつつ、幼稚園の件を検討するべきではないか。幼稚園の統廃合計画はこの方針に逆行している。検討の方向性を見直していただくことを希望する。 ③農村部の幼稚園はのびのびとしており「安全・安心・地域との繋がり」を確保できる立地にある。その幼稚園を統廃合して数を減らすことは、基本計画と逆行している。一番肝心の「安全・安心」が抜け落ちている。検討する際の優先順位を是正すべき。 ④学級規模は小さい方が望ましいのは自明。中学校再編統廃合計画はこの流れと逆行しており、過去の価値観の延長で議論が進められている。グローバル化に本気で対応するのであれば、過去の価値観の延長で、議論が進んでいることについて、見直しが必要。	6件

項 目	件 数
<p><b>教育環境の整備・充実（エレベーター、空調、トイレの洋式化、ICT整備・活用等）</b></p> <p>①エレベーターが設置されていない学校がほとんど。生徒の移動は、何人もの大人で運ばないといけない。すべての人が安全に過ごせ、充実した教育活動を展開するためには、教育環境整備が必要不可欠。すべての教室にエアコンの設置を。</p> <p>②「きれいなトイレ」は、生活環境の中でも大切な問題。衛生サポートスタッフの継続配置が望ましい。</p> <p>③トイレの洋式化や雨漏りの改善、机、椅子の老朽化等まだまだ見直さなければならぬことが数多くある。</p> <p>④公的施設で和式なのは学校くらい。早期のトイレの洋式化を望む。</p> <p>⑤特に ICT の活用については、環境の整備及び活用方法の充実を他の自治体よりもどんどん先進的に進めてもらいたい。</p>	5 件
<p><b>教職員の働き方改革</b> <b>（人員確保・増員、多忙化解消、専門的教員の配置、学校家庭地域の役割の見直し等）</b></p> <p>①外国語教育、ICT教育などについては、各校に専門的な教員を配置して子どもたちに力をつけて行くべきであり、それが教員の業務改善にもつながっていく。</p> <p>②子ども達が伸びやかに過ごせるよう、加配教員の増員を希望する。留守番電話の導入により、放課後の仕事効率が非常に良くなった。安心して仕事に集中でき、大変ありがたい。</p> <p>③年々、特別な配慮を要する子どもや特別支援学級・学校に在籍する人数は増えつつある。必要とされる学校に、必要な人数(性別も考慮)を配置していただくと嬉しく思う。</p> <p>④教職員が余裕をもって教育活動を行えていないのが現状。人員の確保だけでなく教育振興基本計画の中で地域・学校・家庭の役割についても一度考え直し、それぞれがその役割において責任を持って子ども達を育てていくことが必要。</p> <p>⑤学習指導員や衛生サポートスタッフの配置は、成果が大きかったと思う。まだまだ終息がつかない中、今後も継続した配置を望む。</p>	5 件
<p><b>三田市への愛着は信頼関係から</b></p> <p>①三田市への愛着が育っておらず、その重要性も市民に共有されていない。相互に信頼しあえる関係を構築し、市民一人一人が三田市の教育環境で育て育った主体であることを十分実感できる環境とされたい。対話する姿勢を、施策決定から現場・家庭まで重視されたい。</p>	1 件
<p><b>農村部の人口減少（ふるさとを守り維持することを柱に検討を）</b></p> <p>①農村部の担い手は減っていく一方。子供達の人生へ大きく影響を与える時期にこの現状を知らせながら、課題を解決するような方向にしなければ、10年後、20年後には、三田市の宝は消滅し、三田市を維持していくことは困難になる。</p> <p>②「農村部で農業体験」などは、日々汗を流し、農村を守っている人に対して軽々しくお願いすることではない。単発ではなく、子供達には一気通貫で経験をさせ(中略)れば、最高の教育になろうかと思う。</p> <p>③三田市には「ふるさと」と呼ぶにふさわしい場所がある。ふるさとを守り維持することを柱に検討を。三田市の宝が消滅しつつあることを理解していただき、学校教育がそこにどう貢献できるのかを考えながら検討を進めていただきたい。</p>	3 件
<p><b>低学力のサポート、インクルーシブ教育の推進</b></p> <p>①低学力の児童の力を伸ばすためのサポートをしてほしい。障害のある子が通常学級でもサポートされ学ぶことができる体制作りを願う。</p>	1 件
<p><b>特別支援サポートセンター</b></p> <p>①サポートセンターの設置は大きな一歩。</p>	1 件

項 目	件 数
<p><b>帰国・外国人児童生徒の支援</b></p> <p>①対象児童生徒数が少なく散在しているため、支援が十分にいきわたっていません。学校教育法施行規則の一部改正（H26）も踏まえ、「豊かな心」の育成ではなく「豊かな学力」の育成」の施策としての計画を希望する。</p>	1 件
<p><b>生きる力を育む教育の推進</b></p> <p>①検討委員会の中で「評価については、学びに向かう力もありますが、学力は教えられれば高くなるけど教える人や親がいなくなったらおしまい、最後に1人で生きていくときにどうやっていくのか、誰がいなくても生きていけるぞということが重要だと思います。」とのこと、感銘を受け、心から賛同する。この生きていけるぞ、という力をどう養うのか。過去の価値観や経験、慣例の延長線で基本計画を立てることは、決して解決策につながらない。是非、VUCA と呼ばれる現代の状況を鑑み、極端なことを言えば過去の価値観を否定するところから始め、ゼロから理想を求めるような議論をしていただきたいと切に希望する。</p>	1 件
<p><b>キャリア教育の推進</b></p> <p>①企業や、地域のその道の専門家から学ぶことの機会を増やすことがキャリア教育への近道だと思う。</p>	1 件
<p><b>答えのない問題にどう取り組むかが大事</b></p> <p>①「答えが分かっていることを教える」よりも、「答えのない問題にどう取り組むか」という事の方が大事。現場の先生方が失敗を恐れずにトライ&amp;エラーを繰り返すことで、児童・生徒はその姿から問題への対応の仕方を感じ取れる。ぜひ失敗を恐れず色々なことを試し、PDCA サイクルを回すこと、そしてそのプロセスを子供に見せてほしい。</p>	1 件
<p><b>共生の心を育む教育の推進</b></p> <p>①差別を主体的になくしていこうとする児童生徒の育成に主眼を置いて、この教育を更に充実させていく必要がある。同和教育の語り継ぎ、更には、個別の人権課題解決への取り組みについて、教育委員会がイニシアチブをとりながら示していく必要もある。</p>	1 件
<p><b>児童生徒への支援・相談体制の充実</b></p> <p>①教職員アンケートにおいて、多忙と感じる業務の中で、支援の必要な児童生徒の家庭への対応ということが、高い数値となっている。SCやSSWの全小中学校への配置が必要。</p>	1 件